

第19号 平成25年3月30日発行

# 藍すまいる

立春

平成19年3月19日 創刊

伊達市障がい者総合相談支援センター「あい」



## 25年度の児童デイサービスセンターの体制について

胆振西部児童デイサービスセンター 所長 市原ゆうき 氏

胆振西部児童デイサービスセンター（通称あいあいROOM）は、心身に発達の違いや心配のあるお子さんに対し、療育訓練や指導を行い、発達のお手伝いをしています。また、子育てについての相談も受けています。現在、1市3町（伊達市・洞爺湖町・壮瞥町・豊浦町）から83名のお子さんが通所してきています。

平成24年4月より、障害のあるお子さんが、身近な地域で支援を受けられることを目指して、障害児支援に関する法律が改正されました。（一年間はみなし期間）

改正の大きなポイントとしては、主に、障害種別ごとだったサービス体系が、通所・入所の利用形態別に再編されます。また、保育所や幼稚園に出向いての支援（保育所等訪問支援）や相談支援など新たなサービスが創設されます。

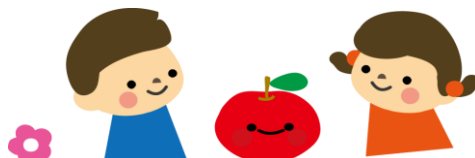
以上の改正をふまえ、当センターでは障害児通所支援として、従来同様に幼児対象の「児童発達支援」と、学齢対象の「放課後等デイサービス」のふたつの事業を行います。

サービスの利用に際しては、市町村へ支給申請をしていただき、利用者が相談支援事業所と契約します。相談支援専門員が、総合的な援助方法や解決すべき課題を踏まえて、個々の適切なサービスの組み合わせ等について検討し、支援利用計画を作成します。この計画に基づいて、市町村は受給者証を交付し、利用契約・利用開始の流れになります。

また当センターの通所サービスでは、場所の狭さもあるため、幼児・学齢児合わせて定員10名の小規模型になります。定員内でのニーズに応える形になりますが、今までと同じように、幼児は個別と集団療育を行い、学齢児は小集団の活動に取り組んでいきます。

放課後等デイサービスのニーズが高いことは十分理解していますが、すべてのニーズに応えることは難しく、引き続き体制作りについて市町村との協議会で話し合っていく予定です。

課題はたくさんありますが、地域の身近なセンターとして、これからも子育てのお手伝いをしていきたいと思っています。



# 平成24年度第4回伊達市地域自立支援協議会

2月25日(月)18時より、伊達市防災センターにて開催されました。以下、概要として議事を記載します。

## ■議題1 専門部会報告

### 1) 精神障がい者地域生活支援部会

病院・福祉サービス事業所へのGHのニーズ調査の結果、418名中74名の方が何らかの形でご本人或いは支援者側が必要と感じているとのことでした。今後GHの設置をどうしていくかが課題となっています。また、就労後の実態調査に取り組む予定です。

### 2) 発達支援部会

H25年度児童デイサービスセンターの体制について、定員はそのまま10名で「児童発達支援事業」と「放課後等デイサービス」の実施を予定しています。また、子どもの相談支援については相談室あいが実施しますが、「障害児利用計画」という名称について、障害児と謳うのはいかなものかとの声がありました。

アンケート調査を実施し、学齢期を支えるサービスの必要性については見えてきましたが、それをどう具体化していくかが部会としての今後の課題となっています。

### 3) 高齢障がい者支援部会

GH・CHを利用している50歳以上の方170名、世話人・サビ管157名を対象に、ハード面・ソフト面・個別の状況調査を3回に分けて実施してきました。その中から見えてきた課題、特にダウン症の方の早期老化は現在進行形で進んでおり、今後どう取り組んでいくか次回以降検討されることになっています。

## ■議題2 障害福祉サービス、障害児給付費等の利用状況について

圏域センターより情報提供がありました。昨年10月末現在の道の計画相談支援は701件。全国第3位ではあります。人数割りで行くと中間位です。障害児相談支援は112件となっています。

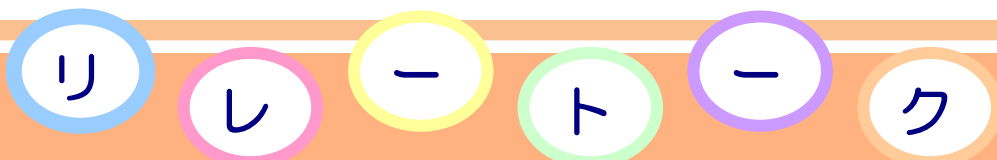
全国的に見て計画相談支援は進んではいますが、国の目標数値には到達していないのが現状です。

## ■議題3 伊達市障がい福祉サービスガイドブックの改訂について

コンパクトなサイズにし、来年度4月に再発行の予定です。

## ■その他

予定していた伊達市障がい者計画（23年度における施策に関する報告）は都合により次回協議会へ持ち越しとなりました。



社福)伊達コスモス21 サポートハンズころころ  
生活支援ワーカー 副島 崇宏さん

生まれ故郷である広島県の因島を離れ、札幌で美容師として励んでいた頃の話です。札幌に在住していた時、ある施設でファッションショーを行うという話があり、ボランティアとして参加させて頂いたことがありました。そこにいた方達は、重度の障がいのある方がほとんどでしたが、女性は口紅を塗った唇を嬉しそうに鏡越しに見つめ、男性はいつもとは違う服装に終始笑顔を浮かべており、自分の変化を楽しんでいました。本番のステージを支援員と歩く姿は着替える前とは打って変わって、恥ずかしそうながらも「私を見て!」という雰囲気伝わってくるような、自信に満ちた表情で誇らしげでありました。

ファッションやメイクがとても大きな役割を持っていると感じさせてくれるイベントでした。障がいがあるのかなかろうが、彩りを楽しむ気持ちは心を非常に豊かにします。その素晴らしさをみなさんにもぜひ感じてもらいたいと思います。



次回は だて地域生活支援センター総務課長 高井隼人さんを予定しています。

## 情報発信！NO.16 ～特定非営利活動法人 さらら壮瞥～

特定非営利活動法人 さらら壮瞥  
理事長 坂爪 義春 氏

当事業所は、平成22年9月1日に北海道知事認可を受けて「特定非営利活動法人さらら壮瞥」として壮瞥町滝之町で障害福祉サービスを提供し運営しております。法人名のさららとは、当事業所の農作業で取り組んでいるピーマンの品種名から頂きました。提供しているサービスは、就労移行支援と就労継続支援A型です。それぞれの定員は就労移行が6名、継続A型が14名となっています。開設当初は利用者が来るのか不安一杯からのスタートでしたが、現在利用されている方も定員の20名となり、知的に障がいがある方が多く利用されており、地域的には伊達市からの利用が最も多く、洞爺湖町、室蘭市からも利用されている方もいます。作業の内容ですが、就労移行支援では職業指導員のもとパン作り・接客を主に行っています。壮瞥町の道の駅の向かいにさららパンの看板を見かけた方も多いかと思えます。利用者はパン作りの技術を学ぶことの他に、スタッフが運転する外販車に同乗し、保育園等に納品したり、地域の事業所への外販も行っています。実際にレジに立ち接客を学ぶ機会もあります。お客様に対して最初はぎこちなかった女性の利用者も仕事を覚えていくことで気持ちに余裕が出来積極的にお客様に声をかける場面も見られます。この機関誌をご覧になっている皆様も機会がありましたら一度立ち寄っていただき利用者の働きぶりを見ていただけたらと思います。継続A型では、法人理事長が元々専業農家であったため、野菜作り・収穫・出荷準備等の作業に取り組んでいます。メインとなるピーマンの作業では、ビニールハウスでの作業が多く、収穫がピークを迎える夏場では、ハウスに入るとあっという間に汗だくの状態になりますが、利用者は泣きごととも言わず頑張っております。いずれのサービスにおいても就労に必要な知識・技術の習得に必要な支援を行っております。私どもの法人では一般就労に向けた訓練と同じように、レクレーションにも力をいれており、当事業所はさくらんぼの木もあり、春先には一面がピンク色に染まり、花びら舞う下で焼肉を食べビールを飲んだり、季節を感じられる行事を盛り込んだりして利用者を楽しい一時を過ごしていただくように務めています。

昨年、高齢者、障害者が共に暮らす「ふれあいハウスさらら」も完成し現在3名の方が入居されています。壮瞥町では「たつか一む」さんが障害福祉において先駆的に取り組んでいただいたこともあり、壮瞥町では行政も町民も障害者、高齢者福祉に理解・関心をいただいていると日々感じています。そのような中、地域のニーズに応えながら、利用されている障害のある方皆さんが「楽しく」「笑顔」で一般就労に向けて頑張っていけるよう、私を始め支援スタッフ全員で支援に取り組んでいきたいと考えています。



さららパン店舗室内



# 利用者インタビュー

渡邊正勝さん (70)

地域移行支援を活用し退院。現在、地域定着支援を利用し伊達市内で単身生活を送っています。

### ～ここに来るまで～

20年近く病院にいた。その時、夏はソフトボールをやって守備はサード。入院は良いような悪いような、何も考えることないし…今は自由だし通院すれば先生もいる。やっぱり自由な生活はいいね。



好きな歌手～三橋三智也、村田英男。やっぱり演歌♪  
こだわり～コーヒーはネスカフェゴールドブレンド。  
ヘルパーさんの料理で好きな物～チャーハン。

気をつけていきたいこと～①身体を大事にしていく。  
②ストレスをためないようにする。

### ～趣味～

趣味は川釣り、昔は蘭越の方にも行っていたが今は伊達、長和、関内まで自転車に乗って行く。釣果はやまべ、イワナ、にじます等。自分でさばき、料理もする。イワナは塩焼き、にじますは刺身が美味。

◆またコーヒーを飲みながらゆっくりお話したいと思いました。  
渡邊さん、今回は色々なお話を聞かせていただいてありがとうございました。(O)

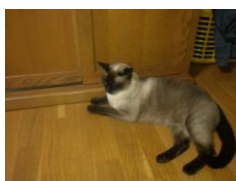
## ～新任職員紹介～



はじめまして、1月から相談室あいにお勤務している岡部由美と申します。  
13年間家庭に入っていたため、久しぶりに仕事を始めると、福祉制度の変化はもちろん、事務機器の進歩に驚いて、浦島花子状態になっていますが、何もかもが新鮮に感じられ、毎日うきうきしています。  
これからは、スタッフの方々の迷惑にならないようにひとつひとつ着実に仕事を覚えていきたいと思ひます。  
どうぞ宜しくお願いします。



◆動物には、何とも言えない「ほっこり癒し感」があります。今、ペットロス症候群一歩手前の私の前に子猫が現れたら…。



(k) 愛猫空(くう)

◆今年一月三日、我が家の次男猫が悪性腫瘍のため天国に旅立った。私たち家族の一員になってから一〇年。自己主張の少ないとても穏やかな彼は、私が落ち込んでいた時には傍りに寄り添い、嬉しい時は一緒に喜びを共有してくれる大切な相棒だった。  
◆病気がわかってから、「気づきが遅かったことへの後悔」が尽きず、その一、二日に小さく痩せてゆく姿を見守ることにできないうち、三〇日の夜には、三男猫と二人羽猫をしている姿は何とも微笑ましく、最後まで私たち家族に「ほっこり」をもたらして、何とか兄弟猫とともに新年を迎えることができました。

